

氏 名	山 田 由 紀
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 2 4 号
学位授与年月日	平成 2 1 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	介護老人保健施設における高齢者の発達課題に関する研究 - 高齢期を適応へ導くための看護師の視点 -

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	129	(ふりがな) 氏 名	山田 由紀
修士論文題目	介護老人保健施設における高齢者の発達課題に関する研究 —高齢期を適応へ導くための看護師の視点—		
<p><研究目的> 介護老人保健施設入所高齢者に対し、高齢期を適応へ導くための看護師の視点を明らかにするものである。</p> <p><研究方法> 京都府下 10 箇所の介護老人保健施設において、3 年以上勤務する看護師 10 名に半構成的面接法を用いてデータを収集した。得られたデータに対し KJ 法の手法を参考に分析をおこなった。</p> <p><研究結果> 上位カテゴリーは、【多角的な看護実践評価】【高齢者の機能に沿った生活環境の確保】【高齢者の潜在力の発揮を促す】【高齢者の固有性を尊重する】【他職種間との円滑な連携体制の構築】【実践を通して超越した成果を育む】の 6 個が抽出された。中位カテゴリーは 18 個、下位カテゴリーは、224 個が抽出された。</p> <p><考察> 高齢期は潜在的な障害や疾病を併発し、不明確で非定型的な症状、徴候を呈する。その様な高齢者に対し、適応へ導くために看護師は【多角的な看護実践評価】を行う事が重要である。また日常生活を送る際、高齢者は様々な支障や弊害に直面し、自立を阻む状況や不安、恐怖を抱く事態が発生する。その様な高齢者に対し、適応へ導くために看護師は、【高齢者の機能に沿った生活環境の確保】していく事が重要である。また高齢者支援に関しては、自立支援や介護予防が推進されている。そのため【高齢者の潜在力を発揮を促】し、高齢者の機能レベルの維持向上をめざしていく必要がある。また看護実践を展開する際、高齢者は個人差も大きく、個性が表出されやすいといわれている。その様な事から【高齢者の固有性を尊重】していき、高齢者の特性やニードを考慮し思慮深い関係構築に努める事が重要である。高齢者は疾病だけで判断していくのではなく、身体、心理、社会的側面からアプローチしていく事が重要となる。そのため様々な側面から総合的に評価していくために【他職種間との円滑な連携体制を構築】していき、各職種間で専門性が発揮できるシステム作りが必要である。その中で看護師は専門性を発揮していく事となる。高齢者は悲観的な経験や喪失体験など様々な危機的状況に陥りやすく人間存在の基盤である生きがいを喪失する可能性が高いといわれている。そのため看護師としての役割、機能だけでなく【実践を通して超越した成果を育み】ながら意義深い関係づくりに努める必要があると考える。</p> <p><総括> 以上から、介護老人保健施設入所高齢者に対して看護師が、高齢期を適応へ導くため、6 個の上位カテゴリーの視点から高齢者の特性や、高齢者の立場を考慮して、思慮に富んだ看護援助をしていく必要があることが示唆された。</p>			